

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。																																																				
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	作家の制作支援として、地域性や領域横断性といった特徴を運営体制や調査研究に反映させていきたい。																																																				
事業名称	スタジオ・サポート・プログラム(滞在制作事業の代替プログラム) 1) 榎本浩子 2) 村田峰紀 3) 劇団灰ホトヲ	海外の作家とのオンライン制作プログラム 1) キム・ジェミニ	地域アートプロジェクト(長期プロジェクト) 1) スン・テウ ソングプロジェクト 2) 「イミグラジオ」アーツ前橋多文化放送局																																																		
時期・日数	(1) 2020年10月1日～11月30日 61日 (2) 2021年1月5日～2月28日 54日間 (3) 2020年10月1日～11月30日/ 2021年1月5日～2月28日 115日間	(1) 2020年10月1日～2021年3月31日 44日	(1) 2020年12月12日～2021年3月21日 99日 (2) 2019年12月25日～2021年3月末 約96日																																																		
場所	堅町スタジオほか	オンライン	市内各地																																																		
学芸担当者	池上、五十嵐	五十嵐、池上	五十嵐、池上																																																		
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会																																																		
最終修正日	2021/3/19	2021/3/19	2021/3/19																																																		
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	・県内作家の創作活動支援。 ・制作場所の提供により、制作の機会を与える。 ・当館のウェブサイトやSNSで活動の内容を配信することで、多くの人にアーティストの活動を知ってもらう。  ターゲット: 近隣住民、県内 ① 館外活動により、幅広い層への活動紹介	・多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。 ・海外のアーティストの目を通した地域資源の発掘。 ・前橋の歴史を題材にした作品を通して海外に前橋を発信。  ターゲット: 近隣住民、市内 ① 地域資源の発掘 ② 海外での発信 ③ 多文化交流の機会創出	・現在前橋市内／近郊で増えている外国人と協働で行うプログラムを実施。 ・アーティストのみならず、様々な人が関わり合い、意見を交わし、世代を超えてつないでいく、長期にわたり市民の創造性に訴えることのできる事業を行う。 ターゲット: 地域住民、市内 ① 地域資源の発掘と再評価 ② アーティストと市民の知識の共有と交換																																																		
【①投入】 成立予算	265千円	1,290千円	1,765千円																																																		
【②内容・活動】 事業の概要	コロナウイルスの影響で国内外のレジデンス事業がすべて延期したため、県内の作家を支援するプログラムとして始動。群馬県在住の作家に対し、地元での制作環境を支援するため、スタジオスペースの提供を行う。	国内外で活躍する外国人作家とオンライン上で連絡をとりながら、滞在制作活動を行なう。本年度は、昨年度韓国の国立現代美術館レジデンス・コヤン(MMC A Residency Goyang)との二国間交流事業により招聘した、1名のアーティストと協働で作品制作を行う。	(1) ベトナム人アーティスト、スン・テウが前橋在住のベトナム人留学生と制作したベトナム語と日本語で歌われる「歌」を街中で流し、それを通して前橋に住む外国人の存在と心情を地域の人たちに感じてもらう。 (2) 外国人をゲストに招くラジオプログラムを通して、市民に前橋市内／近郊に住む外国人をもっと身近に感じてもらう、多文化への理解を深める。																																																		
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	・コロナウイルスの影響で、制作／発表の機会を失ったアーティストに対し、活動場所の援助を目的としたプログラムを開始した。	・コロナウイルスの影響で海外からアーティストを招聘できなくなったことから、オンライン上での交流プログラムを開始。これまでアーツ前橋の滞在制作に参加したことのある作家から1名を選出し、滞在した際に残っていた制作アイデアの実現を最終目的とした。	・ラジオプログラムの収録と配信を一月に一度行い、アーツ前橋のホームページで配信する。 ・商店街をはじめ地域の人々に協力をしてもらい、テウが制作した「歌」を1日に一回市内12か所で流す。「聴く共鳴する世界」の関連プログラムとして、展示期間内に実施。																																																		
【数値目標】—【結果】	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>招聘アーティスト</td> <td>2組</td> <td>結果</td> <td>3組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>スタジオ利用</td> <td>1組</td> <td>結果</td> <td>1組</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>イベント回数</td> <td>1回</td> <td>結果</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加者数</td> <td>12名</td> <td>結果</td> <td>0名</td> </tr> </table>	指標1	招聘アーティスト	2組	結果	3組	指標2	スタジオ利用	1組	結果	1組	指標3	イベント回数	1回	結果	0回		参加者数	12名	結果	0名	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>参加アーティスト</td> <td>1組</td> <td>結果</td> <td>1組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数</td> <td>0回</td> <td>結果</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数</td> <td>0名</td> <td>結果</td> <td>0名</td> </tr> </table>	指標1	参加アーティスト	1組	結果	1組	指標2	イベント回数	0回	結果	0回	指標3	参加者数	0名	結果	0名	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>参加アーティスト数</td> <td>1組</td> <td>結果</td> <td>1組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数</td> <td>0回</td> <td>結果</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数</td> <td>0名</td> <td>結果</td> <td>0名</td> </tr> </table>	指標1	参加アーティスト数	1組	結果	1組	指標2	イベント回数	0回	結果	0回	指標3	参加者数	0名	結果	0名
指標1	招聘アーティスト	2組	結果	3組																																																	
指標2	スタジオ利用	1組	結果	1組																																																	
指標3	イベント回数	1回	結果	0回																																																	
	参加者数	12名	結果	0名																																																	
指標1	参加アーティスト	1組	結果	1組																																																	
指標2	イベント回数	0回	結果	0回																																																	
指標3	参加者数	0名	結果	0名																																																	
指標1	参加アーティスト数	1組	結果	1組																																																	
指標2	イベント回数	0回	結果	0回																																																	
指標3	参加者数	0名	結果	0名																																																	
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)	スタジオ利用に特化したプログラムだったが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会を失ったアーティストに制作場所を提供することで制作のきっかけを与え、アーティストの活動を記録をすることでコロナ禍での創作活動支援を行うことが出来た。また制作の場としての堅町スタジオの利点を再認識することができた。	プログラム終了後、後日記入	前橋で近年増えつつある海外移住者の問題という難しいテーマ扱う事業展開をするなか、ベトナム人アーティストやコーディネーターをチームの一員として迎えることで、偏りがなく、かつ対象者を限定しないプロジェクトを作り上げることができた。また、商店街や海外移住者が経営するお店など、街中に新しい地域の繋がりを築くことができた。																																																		
特記事項		イベントの開催が難しいため、数値目標についてはSNSなどでの反応などを反映したい。	- 1 -																																																		

# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		スタジオサポートプログラム					
	事業1	アーティスト	榎本浩子	期間	10/1-11/30	日数	61	
	事業2	アーティスト	村田峰記	期間	1/5-2/28	日数	54	
	事業3	アーティスト	劇団灰ホトラ	期間	10/1-11/30, 1/5-2/28	日数	115	
	担当者	学芸:池上朋、五十嵐純 事務:堺大輔、狩野良輔						
	目的・目標 (総括表)	・県内作家の創作活動支援。 ・制作場所の提供により、制作の機会を与える。 ・当館のウェブサイトやSNSで活動の内容を配信することで、多くの人にアーティストの活動を知ってもらう。						
	キーワード	創作活動を支援						
	他団体との連携 (共催、協力等)	2名の県内在住のアーティスト(木暮伸也、竹村京)に作家選考の審査員として業務を委託						
	参加作家	榎本浩子		村田峰記		劇団灰ホトラ(特別選考)		
	関連イベント・人数	関係者のみを対象にしたオープンスタジオ(前期) 新型コロナウイルス感染症対策をおこなったかたちでのオープンスタジオ(後期)						
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等							
	財務指標	収入(A)	支出(B)	収支比率	一人当たり	収入内訳		
		別表から転載	別表から転載	(A)/(B)	コスト	観覧料	文化庁	自治総他
		予算	-	265,000 円	-	-	-	-
		決算見込	-	265,000 円	-	-	-	-
		差額			-	-	-	-
予算/決算		100.0%	-	-	-	-		
② 内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要 (転記)	県内作家を対象とし、期間中堅町スタジオを利用して制作活動をおこなってもらう。スタジオ利用者を当館のウェブサイトやSNSを通して公募し、3人の審査員の選考の結果、榎本、村田の2名の利用者が選出された。また特別選考とし、滞在制作の支給がない形でのスタジオの利用者として劇団灰ホトラが選ばれた。					
	【②活動】 主な取組(手段)の結果	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	コロナウイルスの影響で国内外の滞在制作プログラムが実施できないことをうけ、県内作家支援を目的とした新たなプログラムを実施。制作/発表の機会を失ったアーティストに対し、活動場所を提供する「スタジオ・サポート・プログラム」として始動した。					
	メディア等広報実績 新たな試み 関連イベント 助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案	12/1 上毛新聞「コロナ禍 変化する関係性 劇団灰ホトラ」(劇団灰ホトラ 動画投稿)					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試 みの実績	コロナウイルスの影響でオープンスタジオが開くことができないなか、当館のウェブサイトやSNSを利用して、作家のこれまでの活動や、プログラム期間中の制作の様子などを配信した。後期(村田氏、灰ホトラ)は新型コロナウイルス感染症の対策をしながらオープンスタジオを実施。村田氏は堅町スタジオの特徴でもあるガラス張りの入り口を活用し、外から見る展示を行った。灰ホトラは階段の踊り場スペースを活用し、1時間3名限定の公演を行った。					
③ 結果	数値目標	指標1	目標	イベント回数:2回		実績	2回	
		指標2	目標	参加者数:30名		実績	42名	
			目標			実績		
	コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)						---	
進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:							

## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	スタジオサポートプログラム					
④ 成果	④成果 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	コロナ禍でも地域のなかでアーティストが活動している様子を少しでも市民に伝えるよう心掛けた。				
		成果	外からも見ることができるオープンスタジオなどを行い、アーツ前橋の活動に関心のない人たちにも、幅広くアーティストの活動を届けられるようにした。結果、通りすがりの市民が堅町スタジオを訪れて作家と交流するなど、新たな展開がみられた。またプログラム内容や活動期間中の様子を多くの人に知ってもらうため、各作家にインタビューを行い、その様子を映像にて配信する予定。				
		ねらい1 (転記)	①館外活動により、幅広い層への活動紹介				
		成果	前期はコロナウイルスの影響で広く公開することは出来なかったが、アーツ前橋スタッフと商店街などの一部の地域の人に声をかけ、少人数のオープンスタジオを実施した。後期は外から展示の様子を見られるようにするなど、通りすがりの人などにもアピールできるよう工夫をした。SNSなどで活動の様子を報告することで、より広い層へアーティストの制作の様子を周知できた。				
		ねらい2 (転記)	②活動拠点の創出				
		成果	灰ホトヲはオープンスタジオで発表した新作の演劇を、街中のギャラリーMAPでも公演し、榎本氏はスタジオ利用中に制作した作品を、街中のギャラリー、ヤーギンズで展示した。				
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を○内に 入れてください ※概ね1年経過後 に再確認して修正	ねらい3 (転記)	③作家の支援				
		成果	コロナウイルスの影響で制作の場所や発表の機会を失った作家への支援を目的としていたが、劇団灰ホトヲはコロナウイルスの影響から普段稽古場として使用していた公民館が使えなくなったことを受け、せんかわ演劇コンクールでの発表に向けて稽古をおこなう場所として堅町スタジオを利用。ガラス張りの入り口を利用しての稽古など、スタジオの新しい活用方法を実施した。				
		<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒コロナ禍でアーティストの活動が制限されるなか、制作場所の提供、また発表の機会を与えられたことは、地域のアーティストにとって大きな刺激になった。 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒榎本氏はスタジオで制作した作品を、前橋市のギャラリー、ヤーギンズで展示した。(10/31-12/20) 灰ホトヲはスタジオ利用中に考えた演目を、オープンスタジオだけではなく街中のギャラリーMAPでも公演した。(3/8) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒ 灰ホトヲは、スタジオ利用中に制作した動画についての記事が上毛新聞に掲載された。(12/1) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入					
		自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		自己評価(担当者)	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		自己評価(担当者)	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
自己評価(担当者)	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る		
自己評価(担当者)	課題・改善点	コロナウイルスの流行が収束しないかぎり、特に海外からの作家の受け入れは難しく、次年度以降も滞在制作プログラムの実施が困難になることが予想される。そのなかで可能な堅町スタジオを利用した作家支援や、作家と地域との交流事業を考えていく必要があり、新たな「スタジオ・サポート・プログラム」の展開も検討していきたい。					
自己評価(担当者)	引継ぎ事項 (特記事項)						
コメント・意見	館長 副館長	滞り制作事業へのコロナの影響を初期に再検討し、柔軟に対応できたと思う。これまでと同様の課題として、何が起きているのか、何のために事業をおこなっているのか、を明確に言葉にして発信してほしい。					
	運営 評議会						

# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		滞在制作事業(海外) ※変更プログラム						
	事業1	アーティスト	キム ジェミニ	期間	2020年10月—2021年3月	日数			
	事業2	アーティスト		期間		日数			
	事業3	アーティスト		期間		日数			
	担当者		学芸:五十嵐純、池上朋 事務:塚大輔、狩野良輔						
	目的・目標 (総括表)		多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。						
	キーワード		創作活動を支援、地域資源の発掘						
他団体との連携 (共催・協力等)		コーディネート業務を一部外部に委託 国立現代美術館レジデンシー・コヤン(MMCA Residency Goyang) / 韓国(二国間交流事業)							
参加作家		キム・ジェミニ							
関連イベント・人数									
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等		ランニングマップ						
			3,500 部						
	財務指標		収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A) / (B)	一人当たり コスト	収入内訳		
							観覧料	文化庁	自治総他
	予算		-	5,824,200 円	-	-	-	-	-
決算見込		-	3,359,923 円	-	-	-	-	-	
差額			-2,464,277 円	-	-	-	-	-	
予算/決算			57.7%	-	-	-	-	-	
② 内容・活動	[②内容] 事業の概要		事業の概要 (転記)	新型コロナウイルス感染症の影響により、滞在制作事業ができなくなったことから、過去の滞在制作アーティストであるキム・ジェミニ氏と遠隔で新規プログラム(インビジブル・ファクトリーズ)を実施。地域の歴史と産業の変化を調査し、だれでも参加することができるランニングマップを制作					
	[②活動] 主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み 関連イベント 助成 など		広報戦略 新たな試み (転記)	オンラインによる遠隔での打ち合わせと日韓の両国において事業を実施する。					
	●指標 来館者反応 手こたえ アンケート		広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案]	※マップ配付、動画配信に併せて実施予定					
			新たな試み の実績	前年度来日し、関係性が構築されており、土地勤もあったことから遠隔での事業実施でもおおむね順調に事業が実施された。両国で展開するプログラムとしたことで、交流プログラムの成果や継続的な関係性の構築が見込まれる。					
③ 結果	数値目標		指標1	目標	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの実施ができず、またオンラインでだれでもが参加できるプログラムのため、定量的目標設定が難しいが、情報公開後のSNSでの反応等を反映していく。	実績			
			指標2	目標		実績			
			指標3	目標		実績			
			コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)		---				
進捗管理 [スケジュール観]		A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:新型コロナウイルス感染症の影響で変更を行ったため、事業の作成から実施までに時間を要した)							

## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	滞在制作事業(海外) ※変更プログラム				
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	日韓両国における近隣住民、ランニング愛好者、歴史や地域史に興味のある方			
		成果	印刷物が今後広く配布される中で、フィードバックを得たい。			
		ねらい1 (転記)	①地域資源の発掘			
		成果	キム氏の提案により、産業や時代の変化で失われていく工場跡を調査し、作品化することで、地域を形作った産業について掘り下げる機会となった。			
		ねらい2 (転記)	②海外での発信			
		成果	日韓両国においてランニングマップを配布し、ウェブサイトの公開もあることから、日本発の情報としてではなく、相互的な発信作用が見込まれる。			
⑤ 波及効果	個別評価  ※記入日を( )内に入れてください  ※概ね1年経過毎に再確認して修正	< 1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載 > 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒事業完了後記入  2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ 事業完了後記入  3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒事業完了後記入  4. 事業の実施に伴う波及効果⇒事業完了後記入  5. 地域資源の活用という点での効果⇒戦後から現在にかけて市内に存在した工場を調査することで、産業の変化や町の成り立ちを浮かび上がらせ、歴史とスポーツの両ジャンルにまたがる表現につながった。  6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入				
		効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
		課題・改善点	滞在制作事業の中止判断後に立ち上げるようになったため、事業計画の策定と助成元との調整に時間がかかった。前年度十分にコミュニケーションが取れている作家との再協同であったため、意見交換などが十分にできたが、遠隔でプログラムを行うことにかかる時間についてはより入念なスケジュール作成が必要である。			
引継ぎ事項 (特記事項)						
コメント・意見	館長 副館長	多国間の調整は、コロナ感染の状況や年度区切りの違いなどでとても難しい。今年度実現できる範囲に限られたのは仕方ないだろう。今後も同じ状況が続くと考えられるので、本事業の目的をしっかりと再確認したうえで、制約条件の中で出来ることを探すよい機会にしてほしい。				
	運営 評議会					

キム・ジェミニ 《インビジブル・ファクトリーズ》プロジェクトについて

### ■概要

R2年度予定していた滞在制作事業が新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となったことから、助成元の文化庁と調整を行い、変更プログラムとして実施。「交流プログラム」を前提としているため、前年度交流プログラムにて招聘したキム・ジェミニ氏と新規プログラムとして日韓両国の調査をベースとした《インビジブル・ファクトリーズ》を実施した。

### ■《インビジブル・ファクトリーズ》について

前年度前橋に滞在し、植民地主義の影響や戦後の産業と地域の変化について調査を行ったことがきっかけとなり、19世紀後半から現在にかけて存在した前橋とソウル近郊の工場について調査を行った。それらを地図化し、ウェブサイト上で公開。またランニングコースを制作しだれでもが追体験をできるプログラムとした。今後、映像作品としての作品公開を目指す。



上：マップデザイン（日本／前橋）下／左・右：リサーチ及び、映像イメージ

### ■成果物

- ・印刷物 ファクトリー・ラン・プロジェクトマップ 3,000部  
配布計画 1500部は韓国で配布、1500部を県内文化施設及び市内各所に配布
- ・ウェブサイト：invisiblefactories.com 3月中旬より公開 以後、継続
- ・映像 日・韓及びその統一版として、ランニング風景に音楽を合わせた映像作品

助成：令和2年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業



# 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	多文化共生プログラム(ソングプロジェクト/イミグラジオ)					
	事業1	アーティスト	スン・テウ	期間	12/12-3/21	日数	99
	事業2	アーティスト		期間	12/25-3/31	日数	96
	事業3	アーティスト		期間		日数	
	担当者	学芸:池上朋、五十嵐純 事務:堺大輔					
	目的・目標 (総括表)	・海外作家との交流を通し、新たな地域資源を見出し、それを提示することで地域社会に貢献する。 ・ベトナム語を主とした歌を街中に流すことや、前橋に住む海外移住者の声をラジオプログラムを通して配信することで、多文化共生への理解を促進し、新しい地域コミュニティ形成につなげる。					
	キーワード	創作活動を支援、地域資源の発掘					
他団体との連携 (共催、協力等)	前橋とその近郊に在住する市民(小出和彦氏、福西敏宏氏、タオ・ホアン)をコーディネーターとして起用した。 前橋市内のお店12店舗に、歌を流す場所として協力いただいた。						
参加作家	スン・テウ						
関連イベント・人数							
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	スン・テウMAP 3,000部					
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳	
	予算	-	1,764,140 円	-	-	-	-
	決算見込	-	1,703,410 円	-	-	-	-
	差額	-	-60,730 円	-	-	-	-
予算/決算	-	96.6%	-	-	-	-	
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	1)テウが2018年にアーツ前橋の滞在制作事業に参加した際、前橋在住のベトナム人留学生と交流し、彼らの経験や故郷を離れ生活することの思いを歌詞にした歌「more than day(1日よりも長く)」を制作。 その歌を展覧会「聴く 共鳴する世界」の会期中、ベトナム食料店やレストラン、街中のお店などで専用のポータブルプレイヤーを通して聞いてもらう。 2)海外にルーツを持つゲストを招いて、ラジオプログラム「イミグラジオ アーツ前橋多文化放送」の収録を行い、アーツ前橋のホームページで配信する。				
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	広報戦略 ・新たな試み (転記)	1)ソングプロジェクトの概要がわかるリーフレットを作家と共同で制作し、協力店などで配布した。 1)、2) SNSでプロジェクトについて宣伝を行った。				
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ]	エフエム桐生でスン・テウのプロジェクトが紹介された。 毎日新聞(3月17日掲載)にイミグラジオとスンのソングプロジェクトについて掲載された。				
③ 結果	数値目標	指標1	目標	イベント回数:0	実績	0回	
		指標2	目標	参加者数:	実績		
			目標		実績		
		コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				---	
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:					



## 令和2年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	多文化共生プログラム(ソングプロジェクト/イミグラジオ)			
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層 のターゲ ット (転記)	前橋市民、海外からの前橋移住者、外国人留学生		
		成果	1)前橋市内12か所にソングプレイヤーを設置することで、幅広い層の人たちに歌を届けることができ、またプロジェクトを通してお店の人とアーツ前橋の交流を生むことができた。 2)「イミグラジオ」のゲストに海外からの移住者をゲストに招くことで、そこから新たな交流が生まれ、外国人のコミュニティにアプローチすることができた。		
		ねらい1 (転記)	①館外活動により、幅広い層への活動紹介		
		成果	1)前橋CITY FMやエフエム桐生などで、プロジェクトの紹介や「more than day(1日より長く)」を流すことができた。 2)インターネットラジオとしてアーツ前橋のウェブサイトから「イミグラジオ」を配信することにより、移民問題に興味がある人だけでなく、アートに関心がある層などにもアピールすることがあてき		
		ねらい2 (転記)	③多文化交流の機会創出		
		成果	2)ラジオのゲストを交えての交流会を行い、前橋市内の海外移住者やそのコミュニティの情報を提供してもらったと同時に、今後のラジオについて移住者の立場から意見を伺うことができた。		
⑤ 波及 効果	個別評価  ※記入目を○内に入れてください  ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<p>&lt; 1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入目を記載 &gt;</p> <p>1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入</p> <p>2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒後日記入</p> <p>3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒イミグラジオでコーディネーターをしているホアン氏は、2018年のテウ氏のワークショップに参加し、「more than day(1日より長く)」を歌っている本人でもある。滞在制作をきっかけに、ベトナム出身の地域住民であるホアン氏と共同でプロジェクトができたことは、新たな人材の開拓と、外国人コミュニティにアクセスするきっかけをつくった。</p> <p>4. 事業の実施に伴う波及効果⇒ エフエム桐生でスン・テウのプロジェクトが紹介された。毎日新聞(3月17日掲載)にイミグラジオとソンのソングプロジェクトについて掲載された。</p> <p>5. 地域資源の活用という点での効果⇒ベトナム人留学生や地域の人々の協力のもと、プロジェクトを実現することができた。</p> <p>6. 費用対効果(母体)効果⇒後日記入</p>			
		自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	テウ氏がベルリンに在住していることから、主にオンラインで連絡を取りながら事業を進めていったが、時差があることなどでコミュニケーションがうまく取れないことがあった。今後、オンラインでの事業が増えることが予想されるので、時間をかけて関係を構築していくことを心がけたい。「イミグラジオ」に関しては、ラジオという見えにくい媒体であることから、宣伝に力をいれてより広く周知する必要性を感じた。			
	引継ぎ事項 (特記事項)				
	コメント・意見	館長 副館長	イミグラジオのように息の長いプロジェクトを丁寧に進めていってほしい。いっぽうで、多文化共生の専門家ときちんと話し合いながらアートの役割を見出していく作業が必要になっているように思える。		
		運営 評議会			

多文化共生プロジェクト

アーツ前橋から発信する、海外移住者と新たな繋がりをつくる試み

令和1年度に始動した「多文化共生プロジェクト」は、前橋市内とその近郊に住む外国人や留学生と共同でおこなうアート・プロジェクトです。現在前橋市には約7000人以上の外国人が在住しており、その人数は年々増加の傾向にあります。そんな彼／彼女たちの言葉に耳を傾け、歌やラジオといったメディアを通して市民に届けることで、「多文化な街」へと前橋を近づけ、外国人が前橋の文化や美術館に興味を持ってもらうきっかけをつくることを目指しています。

1) ラジオ プログラム「イミグラジオ アーツ前橋多文化放送局」

前橋周辺に住む外国にルーツをもつ人たちをゲストに招き、彼らの日常やここで暮らす想いを語ってもらうインターネット・ラジオです。「イミグラジオ」をきっかけに多文化共生への理解の促進と、地域社会のメンバーとしての外国人の存在を知ってもらうことを目的としています。

- ・インターネットラジオとして録音、公開（世界中からアクセス可能）。
- ・約月に1度アーツ前橋で収録。その音源をアーツ前橋のHPで公開し、毎月アーカイブしていく。
- ・宣伝はSNSで主に行い、リーフレットを街中や大学（主に留学生を受け入れている大学）や語学学校などで配布。

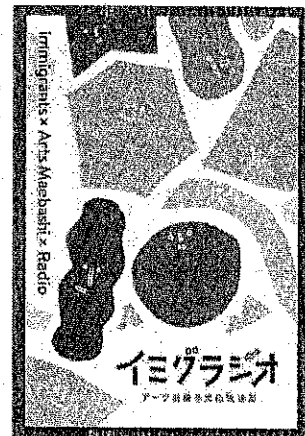
<11月21日収録の様子>

ゲスト タオさん（ベトナム人 現在、県庁職員／イミグラジオの通訳兼コーディネーター）



<ラジオ HP、リーフレット>

	<table border="1"> <tr> <td>〒371-8501 前橋市</td> <td>事務局</td> <td>電話 0286-22-1111</td> <td>ホームページ</td> <td>お問い合わせ</td> <td>アクセス</td> </tr> </table>	〒371-8501 前橋市	事務局	電話 0286-22-1111	ホームページ	お問い合わせ	アクセス
〒371-8501 前橋市	事務局	電話 0286-22-1111	ホームページ	お問い合わせ	アクセス		
<p>immigrants × Arts Maebashi × Radio</p> <p><b>イミグラジオ</b></p> <p>アーツ前橋多文化放送局</p>							
<p>本日は開催しておりません</p> <p>10:00 - 18:00</p> <p>休開スケジュール</p>	<p>ここに行く</p> <p>GETAKE</p>						
<p>もっと楽しむ</p> <p>OPEN / TAKE / ARCHIVE</p>							



## 2) スン・テウ ソング プロジェクト「more than day (一日よりも長く)」

テウ氏が2018年にアーツ前橋の滞在制作事業に参加した際、前橋在住のベトナム人留学生と共同して、彼らの前橋での経験や故郷を離れ生活することの思いを歌詞にした歌、「more than day (1日よりも長く)」を制作。

今年度は展覧会「聴く 共鳴する世界」の関連プロジェクトとして展覧会期間中、ベトナム食材店やレストラン、商店街のアーケイドやお店に、1日に1度、午後4時に歌を流してもう。歌を聴くことで、普段前橋で生活をしているベトナム人をはじめとする外国人たちの存在に目を向けるきっかけをつくる。

協力店 (12カ所) : 大川屋本店、おもてなしカフェ、近留そば店、SHIROIYA HOTEL、タイマイ、コンビニエンスストア チャンドラ、プウ スア クアン、トゥック ファム ヴィエット ティーちゃん、喫茶マルカ、前橋中心商店街協同組合、モモヤ、ロブソンコーヒー

### <協力店の様子>

